男女共同参画情報誌

りぶる さっぽろ

特集
男女共同参画的子育て

コラム
藤女子大学 保育学科教授
木脇 奈智子さん

2015 Vol. 39 夏

「男女共同参画的子育て」
支え合いのしくみ紹介

「母親が家庭でする子育て」がアタリマエではなく、子育てのあり方も時代や状況に合わせ、徐々に変化しています。親も子どももハッピーになれる新しい子育てのしくみを、男女共同参画的子育てとして紹介します。どのようなしくみがあり、利用できるのでしょうか。新しい子育ての取り組みを行っている方に、お話をお聞きしました。

コープさっぽろ保育園
aurinko（アウリンコ）

詳しくはこちらまでお問い合わせください。
■運営団体：NPO法人 のこたべ
■住　　所：札幌市東区北21条東16丁目2-12 コープさっぽろ元町店 2階
■電話番号：011-783-6022　■保育時間：月～金 7:00～20:00
■ホームページ：http://www.coop-sapporo.or.jp/contents/view/id/238

おやつの時間

保育士
小笠原 あゆみさん

園長
横山 幸恵さん

働いている人、子ども、保育士、皆に優しい事業所内保育園

Q1 どのような取り組み・活動を行っていますか？

事業所内保育園として、従業員や地域の方にご利用いただいています。従業員は、子どもになにかあった際にすぐに駆けつけることができ、安心して勤務できる環境となっています。

また、子どもたちの「見る、さわる、嗅ぐ、味わう、聞く」を育む北欧の子育て方法を取り入れています。主に0歳から2歳の子どもが通っていますが、毎日外に出て遊んだり、野菜を育てたりと、自然を肌で感じてもらっています。園内もイス・テーブルなどの家具や遊具、床まで木製のものにこだわっています。

Q2 取り組み・活動を行う上で大切にしていることは何ですか？

子どもの自由・大人の自由を大切にしています。保育時間が7時から20時までと比較的長い時間で行っているのは、多様なライフスタイルで働く方々の負担を軽減したいという思いからです。

子どもには、意思を尊重し、気持ちに寄り添った関わりを持つようにしています。たとえば、外遊びの際も、行きたくない子を無理に連れて行くのではなく、行きたい気持ちになるように声掛けをしています。無理に連れて行ってしまえば、子どもが「行きたくないと言えば靴を履かせてもらえる」などと思ってしまいます。子どもの意思に寄り添うことで、子どもができることを増やすことができると思っています。

Q3 活動を始めようと思ったきっかけは何ですか？

働く人のために、安心して預けることのできる保育園を作りたいという気持ちがきっかけです。仕事のために子どもを預けることに罪悪感を持たず、預けたいと思える保育園を目指して作りました。また、子どもにとっても保育園に来ることで成長につながる場所にしたいと思っています。

Q4 今後の展望を教えてください

当園は、働く方、働きたいと思っている方を応援しています。子育て中の保育士が多く勤務しており、保育士の子どもが熱を出してしまった場合などの休みも、融通が利きやすいように皆で協力しています。預ける方、子ども、保育士すべてに優しい保育園を目指しています。

ぴんぽんはーと

詳しくはこちらまでお問い合わせください。
■運営団体：一般社団法人 ぴんぽんはーと
■利用方法：電話・HP・メールでお問い合わせください
■住　　所：江別市上江別西町56-8 サーム高砂参番館313
■電話番号：011-382-4478　■受付時間：いつでも　■保育時間：要相談
■メールアドレス：uoya.ayachan-920@ezweb.ne.jp
■ホームページ：http://www.pheart.org/

わらべ唄ふれあい遊び

代表理事
魚岸 あや子さん
訪問保育中

子どもが会いたい、親が預けたいベビーシッター

Q1 どのような取り組み・活動を行っていますか？

「自分を大切に思う心」を大切にして、新生児から小学生までのお子さんがいる家庭への訪問保育、イベントやセミナーの託児、保育者養成、遊びの会の開催などを行っています。仕事を始める際に、夫から「人のためになる仕事なら応援する」と言われました。仕事を多くいただいている今でも毎日、これは誰かのためになっているかと振り返っています。

Q2 取り組み・活動を行う上で大切にしていることは何ですか？

ただお世話をするのではなく、お母さんにとっても、子どもにとっても相談しやすい相手になれるように、気持ちも含めサポートすることを大切にしています。ベビーシッターは、親以外で自分のことを認めてくれる一番初めの存在として、子どもの心を育てる役割があると思っています。認めてもらうことで、自己肯定につながり、自分も相手も大事にできる人に成長すると思います。

私の子どもは先天性の病気があり、ずっと「人は心が大事だよ」と伝えてきました。子どもがそのことを実感したのは、高校時代でした。部活動の先生に3年間寄り添い認めてもらったことで、子どもは病気のことを気にしなくなり、個性のひとつとして認識するようになったのです。その先生は、部活動を3年間やり通した後に、「どんなに辛いときも苦しいときも、大丈夫としか言わなかったね。君のことは本当にすごいと思うし、板前になる夢はかなうと思う。店がオープンしたら教えてくれ。一番に食べに行く。」というメッセージをくれる人でした。

親以外の大人に認めてもらうことで、子どもが成長し自己肯定できることを、そのときに実感しました。私もその先生のように、寄り添い、認め、心を育てるベビーシッターでありたいと思っています。

Q3 活動を始めようと思ったきっかけは何ですか？

子どもたちには、病気を理由に夢を諦めないでほしいと思ったからです。親の姿で、どれだけ頑張れば夢はかなうのかを見せたいと思いました。その思いが通じたのか、今では2人の子どもはどちらも目指していた職業についています。

Q4 今後の展望を教えてください

子どもも障がい者も皆が行き来できるような施設を作りたいです。最近、建物はバリアフリーになりましたが、心のバリアフリーはまだまだ浸透していないと感じています。皆が認め合い、幸せになれる場所を作りたいです。

AsMama（アズママ）

詳しくはこちらまでお問い合わせください。

■運営団体：株式会社 AsMama
■利用方法：子育てシェアにて支援依頼（http://asmama.jp/index.html）
■本社住所：神奈川県横浜市中区山下町73　アクティ横浜山下町1306
■電話番号：045-263-6433　■受付時間：9:00〜18:00
■メールアドレス：info@asmama.jp　■ホームページ：http://asmama.jp/index.html

イベント開催時

ホームページ

代表取締役社長
甲田 恵子さん

顔見知り同士でつながる共助のしくみ

札幌でも広まっています！

Q1 どのような取り組み・活動を行っていますか？

「誰もが育児も、仕事も、やりたいことを思いどおりにかなえられる」ように、子どもの送迎や託児を安心できる顔見知り同士で頼り合うインターネットのしくみ「子育てシェア」を開発し、普及に取り組んでいます。

また、「支援が必要な人」と「支援することが好きな人」が出会い仲良くなれる場として、「親子交流イベント」を行っています。このイベントは、年間100社の企業の協力を得て開催し、企業からは子育てや暮らしに役立つ情報も提供しています。

Q2 取り組み・活動を行う上で大切にしていることは何ですか？

インターネットで気軽につながる

「必要なときに気兼ねなく安心して子育てを人に頼ることができる環境」を大切にしています。そのため「子育てシェア」では知らない人とつながることがないよう認証機能を設け、万が一のケガや事故などに対応できるよう全支援者に保険を適用しています。

また、子育て世帯への広報・マーケティング・集客・顧客化に関心ある企業や、ワーキングペアレントを支援したい企業と共に「親子交流イベント」を行うことで、地域交流の場づくりと知り合い同士で頼り合える社会づくりにつなげています。

Q3 活動を始めようと思ったきっかけは何ですか？

以前、職業訓練校で、妊娠や出産を機に離職し、不本意ながら職種や業種転換を図ろうとしている方々を目の当たりにしました。安心して子育てを人に頼る方法がないことで社会的活躍機会が奪われているのは、大きな社会損失だと感じたことがきっかけです。

Q4 今後の展望を教えてください

「子育てシェア」のしくみの普及や利用される方の拡大と同時に、全国で「子育ては人に頼った方がいい」と対面でしっかり伝えられるママサポーターを1万人にすることです。ママサポーターは、アズママ独自の制度で、研修を受講後、「子育てシェア」のしくみを支える存在として、積極的に子どもの送迎や託児を行っています。頼り合いの輪を広げて、活躍するママサポーターが増えれば、子育てを一人で抱え込む人が減ると思います。

また、「顔が見えるから安心」「しくみがあるから気兼ね要らず」というのは子育ての分野に限らず、生活支援や介護といった他分野にも波及していくと考えています。国の財政や政策に頼り切らず、自分たちで生活を豊かにするためのしくみをさらに広げていきたいです。

こども學舎

詳しくはこちらまでお問い合わせください。

■運営団体：NPO法人 進学支援の会 厚生労働大臣指定 保育士養成施設 こども學舎
■住　　所：札幌市西区琴似2条3丁目1-3 テーオービル 3階
■電話番号：011-616-1771　■受付時間：9:00～17:00　■授業時間：9:20～12:40
■ホームページ：http://www.kodomo-gakusha.jp/index.html

授業の風景

副施設長
河村 泰孝さん

学びたいを叶える保育士養成の学び舎

Q1 どのような取り組み・活動を行っていますか？

保育士の資格取得を希望されていても、事情があり通学することが難しい方々の資格取得支援、そして学びやすい環境を整備することが、本学舎の使命だと考えています。これまで、「授業時間の短縮」「学費負担の軽減」「託児ルームの設置」「国の給付金制度の紹介」などを行い、子育て中の方や男性、また10代から60代と幅広い年齢層の方から、「ここでなら学べる！」という喜びの声をいただいています。

「子どもがいるから」「働いているから」と諦めてしまうのではなく、「学びたい！」と思ったときに「学びたい」を叶える学び舎」であり続けたいと願っています。

Q2 取り組み・活動を行う上で大切にしていることは何ですか？

さまざまな境遇の方が、一人でも多く学べるように、進学を希望される方の声を直接お聞きし、対応することが大切だと考えています。「託児ルームの設置」や「国の給付金制度」についても、入学生との会話から設置実現につながりました。

また、保育の実践力を身に付けるには、実際に子どもと関わることが大切だと考えています。本学舎は、全国で唯一「午前授業」を実践する保育士養成施設のため、近年では保育園などから在学生に向けた求人が増えています。在学生には、午後からの時間を大切に使ってほしいと思っています。

Q3 活動を始めようと思ったきっかけは何ですか？

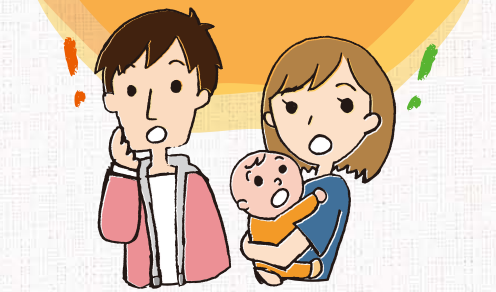
経済的理由で大学・短大・専門学校に通えないという方を支援したいという思いがきっかけです。当初は多くの方より、「18歳人口が激減している時代に学校を作るなんて、絶対にやめた方がいい」と助言いただきましたが、現在は約150名の学生が集う教育施設となりました。それは心ある多くの方に支えていただいたことや、学生のその時々のニーズに対応してきたことで今につながったように思います。

Q4 今後の展望を教えてください

今後は、保育園、児童福祉施設など現場との連携をさらに高め、在学生に現場勤務の機会を与えていただけるよう、協力を求めていきたいです。現場経験のある保育士を本学舎から多く輩出し、現場のニーズに応えることを目標に、歩みを進めていきたいです。

そして、子育て中の方や子どもに対し、優しく見守る、温かく応援する札幌市民の輪が広がり、「子どもの笑顔があふれるまちさっぽろ」と呼ばれる日がくることを願っています。

子育てを思い込んでいませんか？



皆さんは、子育ては誰がするものと考えていますか？たとえば、「子どもが3歳までは母親が育てるのがよい」とか、「母親の代わりになる人はいない」と思っていませんか？

そのような母性の呪縛を母性神話といいます。母性神話の根拠といわれる研究は、第二次世界大戦後の施設児を対象としたものでした。当時の施設は十分に整備されておらず、孤児たちの多くが病気にかかり、発達が遅いケースもありました。その原因のすべてが「母親不在」と結論づけられ、母性神話・三歳児神話は世界中に広まりました。

その後、実の母親でなくても、養育にふさわしい者が継続的に育てれば、子どもにとって問題はないということが科学的に立証されています。日本でも『平成十年厚生白書』に「三歳児神話に科学的根拠は認められない」との立場を明らかにしています。

それでも、人々の規範の中には今も「子育ては母親の手で」という思い込みがなくならないと感じます。それが母親の人生を制限したり、育児不安に追い込んだりしています。さらに「父親が子育てする権利」を奪ってきた原因のひとつに、この思い込みがあると思います。

ここで、フィンランドの子育ての例をお話ししましょう。フィンランドでは、第二次世界大戦後、徹底した男女平等政策をとり、男性も女性も職業生活と家庭生活（子育て）と余暇を両立できるようにしてきました。税金は高いけれど、子育てに関しては妊婦健診（パートナーも同伴）から、出産、医療、保育、教育費まで原則無償です。

出産時には母親手当として社会保険庁から大きな「育児パッケージ」が届けられます。そこには出産後すぐに必要な子どもグッズや親のためのグッズが一式入っています。「子どもの誕生を国を挙げてよろこび、社会で子どもを育てる」大方針が感じられる素敵な育児パッケージです。ベビー服などグッズの色がジェンダーフリーである点も注目です。

母親だけでなく、父親も、社会も「みんなで子育て」を基本とした北欧諸国は、一時期少子化に傾いたこともありましたがそろって回復を見せました。子育てを母親任せにしている東アジア諸国で少子化の進行が止まらないのとは対照的です。

しかし、北欧が夢のような国という訳ではありません。かつては日本と同じように、母親による子育てがアタリマエという時代があったと聞きます。つまり、北欧諸国の変化は、子育ては母親がするべきという思い込みが「変えられる」ことを証明しています。まず、子育て中のみなさん、そしてその周囲の皆さんが、アタリマエを疑うところから始めませんか？

２０１５年４月、「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、すべての子ども、すべての子育て家庭に子育て支援を、という方針が掲げられました。本誌2～5ページで紹介されたように、民間やＮＰＯによる多様な子育て支援がすでに先行しているのは心強い限りです。子育てを社会化することは、社会が子どもを大切にすること。「今、必要な子育てを支えるチカラ」について考えている人たちがつながり、次世代育成について考え行動していきましょう。

藤女子大学 保育学科教授
木脇 奈智子さん
Nachiko Kiwaki

北海道大学教育学部卒。当時全盛だった母子相互作用論に疑問を持ち、お茶の水女子大学大学院で家族社会学・ジェンダー論を学ぶ。子育てとジェンダー、アジアや北欧の子育てについて研究中。著書『男の育児・女の育児』（昭和堂）。社会の「アタリマエ」を疑い、動かしたい。2児の母。

りぷるのススメ

このページではセンター職員がおススメする本をご紹介します。
あなたのお気に入りになれたら嬉しいです。

SOCIOLOGY

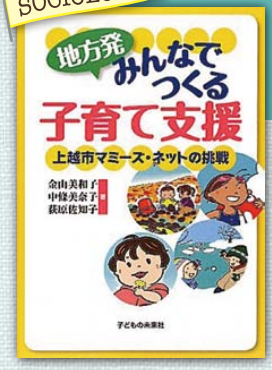
社会で子どもを育てる
子育て支援都市トロントの発想

武田信子　著

780円(税別)／平凡社

人権意識が高く、子どもに優しい都市トロントは、一旦出産や子育てで退職しても、再就職が可能な社会であり、子どもを預けられるシステムも確立していて、選択肢が多く用意されていることが分かります。このような子育て支援の方策を参考に、日本でも、もっと地域で、コミュニティで子どもを引き受ける仕組みはないかを探る一冊です。

SOCIOLOGY



地方発 みんなでつくる子育て支援
上越市マミーズ・ネットの挑戦

金山美和子　中條美奈子　荻原佐知子　著

1,500円(税別)／子どもの未来社

上越市のNPO法人マミーズ・ネットが実践する子育て支援方法が書かれています。「子育ては短くて貴重なときだからこそよい時間を過ごしてほしい」と考え活動してきた具体例を踏まえ、子育て支援ネットワークのあり方や運営方法、アドバイスが書かれており、子育てを支援したいと考えている人におススメです。

STORY

産む、産まない、産めない

甘糟りり子　著

1,500円(税別)／講談社

女性のライフプランを考えるときに切り離せない、『妊娠』『出産』『子育て』をめぐる『選択』にまつわる8つの短編集。「全体をとおして、生き方の正解はひとつじゃない、ということが伝わったら嬉しい」と著者。男性にとっても、パートナーとの関係を考えるきっかけとなりおススメの一冊です。

OVERSEAS

フランス父親事情

浅野素女　著

1,800円(税別)／築地書館

高い出生率を保持しているフランスにおける「父親」の役割がさまざまな視点から書かれた本です。著者は「父親とは文化そのものだ」と言います。平等な役割分担が求められる現代において「父親」はどうあるべきか。文化の違うフランスの現状を知り、日本の将来を客観的に見つめる良い機会になること間違いなしです。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか？

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では
男女共同参画を含めた4分野の資料を
閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。
マークが付いているものは情報センターで
借りることができますので、ぜひ遊びに来てくださいね。

情報センターへのお問い合わせは
011-728-1223
(開館時間 9:00～20:00
貸出時間 9:00～19:45)

札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは女性のための相談窓口を開設しています。
相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。
1人で悩まずに、新たな一歩を踏み出すきっかけとしてお話ししてみませんか。

	女性のための 総合相談	女性のための 仕事の悩み相談	女性のための 法律相談	男性のための 悩み相談
日時	月○○木○土 10:00～12:00 ○火○○○○ 15:00～17:00 ※ただし第2火のみ 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○金○ 15:00～17:00	○○○○金○ ※ただし第1・3・4 第3 金 13:00～15:00 第1・4 金 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○○土 13:00～15:00
相談員	カウンセラーなど（女性）	産業カウンセラー（女性）	弁護士（女性）	臨床心理士、産業カウンセラー（男性）
相談方法	面談／電話（728-1225）	面談／電話（728-1227）	面談	電話のみ（728-1331）
相談内容	家族のこと、夫婦のこと、恋愛、対人関係など女性の総合的な相談に相談員が面談または電話で対応します。	職場における対人関係、働き方、セクシュアル・ハラスメントなど、女性の仕事についての相談に産業カウンセラーが面談または電話で対応します。	離婚や相続など、法律的な見解が必要な女性の相談に弁護士が対応します。完全予約制なので事前にお電話でご予約下さい。 予約受付電話：728-1255	誰にも打ち明けられず、男性であるがゆえに抱え込んでしまう悩みを男性相談員が電話で対応します。

札幌で活躍する女性たちを紹介するロールモデル集vol.2を作成しました

札幌市男女共同参画センターでは、札幌で活躍する女性たちを紹介するロールモデル集vol.2を作成し、配布をしています。女性は出産や育児、介護など、ライフイベントによって働き方が変化しやすい中で生きています。その過程では、仕事を続けたくても続けられない、もしくは新しいことに挑戦してみたいが踏み出せないなど、迷い悩むこともあるのではないでしょうか。ときには、自分の意思より家族を優先して、なにかを諦める人もいるかもしれません。

この冊子で「あの人のこんな工夫を参考にしよう」と思うようなロールモデルを探してみませんか？

配布場所 **札幌市男女共同参画センター**
冊子ご希望の方は窓口にてお申し出ください。
ホームページからもご覧になれます。http://www.danjyo.sl-plaza.jp/rolemodel/

編集後記

世の中では、まだまだ「子どもを預けるのはかわいそう」「母親がつきっきりで子どもの面倒を見るのは当たり前」という風潮があるかと思います。しかし、子どもの豊かな成長につながる取り組みやしくみがあれば、安心して活用できますし、選択肢も広がるのではないでしょうか。男女共同参画センターではこれからも、性別にとらわれずに希望を普通にかなえられる社会の実現に向けて、活動を行っていきます。

発行月：平成27年7月
発　行：札幌市男女共同参画センター
【指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】
Facebook：http://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904

所在地：〒060-0808
札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内
電　話：(011)728-1255　FAX：(011)728-1229
ホームページ：http://www.danjyo.sl-plaza.jp

本誌のタイトル「りぷる」は、英語（ripple）で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。